

令和5年度 大阪府立農芸高等学校 第3回 学校運営協議会

令和6年2月9日（金）

参加者：農業大学校 根来様（A） さつき野学園 中曾様（B）

美原区区长 山田様（C） 同窓会会長 田中様（D）

PTA会長（E） 志摩様

校長、教頭、事務長、喜多村首席、進路部長、保健部長、教務部長、各学科長、
各学年主任、井上

1, 校長あいさつ

2, 学校運営協議会委員長挨拶

3, 協議

担当者より事前報告

①進路指導部総括：コロナ禍以前の状態の指導ができた。応募前職場職場見学や就職試験も順調に行えた。就職試験の結果報告。不採用数も減少した。公務員試験は計3名の合格。進学指導についても概ね進学先が決定。あと3名が受験中である。進路未決定の生徒はほぼいない状況である。

②保健部報告：色覚異常についての研修を実施。現在は色覚検査については希望者のみ実施している状況である。進路選択において、色覚異常が発覚し、進路変更を余儀なくされることがあるため、早めの認知、そして教員が適切な指導ができるよう研修で理解を深めた。本校は農業高校であるため、色覚異常について教員も生徒も知っておくことが必要である。自らが見えている世界が、他人と違うことを知ること、そのような人がいることを知ること、生徒のしている色覚が異なる場合があることを教員が知ることが大切であり、適切な指導を行っていくための研修であった。本校の眼科医のご厚意で講演をしていただき、たいへん有意義な研修となった。

③教務部報告：教務部はICT活用の充実を図った。臨時休校中は、オンライン授業を実施し、学習の補償を行った。さらに高めていきたい。出欠入力フォームを作成。保護者の40%以上が入力を活用してくれている。

E「使用方法がわからない人も多いと思うので、わかりやすく教えていただきたい」

糸満「保護者懇談の際、質問ブース等を設けている。今後はそういった取り組みも充実させていきたい。」

(1) 令和5年度授業アンケート結果について

校長より、授業アンケートの概要説明。

第1回と第2回のアンケート結果を提示。

校長「第1回と第2回のアンケートの比較について。従来は、授業の難易度が上がっているため、全体的に数値が下がることが多いが、今年度のアンケート結果は、すべての項目において、第2回のアンケートが第1回を上回る結果となった。各教科別にみても、本校は3.4以上の平均である箇所が多い。学年別にみても、全体的に平均が上がっている。経年変化を見ても平均値がどれも上がっている。とくに生徒取り組み1の上昇率が高い。わかりやすい授業を実施していると考えられる。」

A「今年度入学された生徒さんの気質の変化や特徴はありますか？」

校長「大幅に異なることはないと思うが、自己診断の結果をみても、1年生は自己肯定感が高い印象がある。2年生は少し低い印象である。」

B「授業アンケートの結果を見ると、令和5年度の保健体育の結果がとも上がっている。なにか理由があるのでしょうか」

稲葉「例えば、バレーボールの授業では、コミュニケーションが大切であることを伝えている。日常会話でもいので会話をしながらパスをするなどすることで楽しんでやってくれている。」

B「部活動と違い、運動の楽しさを伝えることができおり、生涯スポーツすることの楽しさを学べていると感じた。」

(2) 学校教育自己診断結果について

校長より：学校診断結果について概要説明（生徒・保護者・教員）

校長「生徒の結果について。評価が高い項目について、40『学校は1人1台端末を効果的に活用している』が、96%である。（良く当てはまる、やや当てはまるの計）。また、30『命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある』『先生はいじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に応じている』が高い。1年生の評価が高く、2年生が全体的に低い傾向にある。低い評価の項目については、27『教育相談体制が確立されており生徒は学級担任以外の先生とも相談することができる』や5『農芸高校の生徒であることに誇りを持っている』が該当する。特に2年生の評価が低い。39『授業や農業クラブ、部活動などで、他の学校園等との交流や地域の人びととかわる機会がある』は全体では低く、一部の生徒がかかわっていることが多い。24『農芸高校では、生徒会活動が盛んである』については、放課後実習もあるため、あまり高い評価がついていない。

保護者の結果については、回答率が低かったため全ての保護者の評価というわけではない。高い項目としては7『授業内容の難易度や進度は、子どもの学力向上や技術向上等に適している』等、高評価の項目が多い。生徒と同じく生徒会活動については低い評価となっている。また、29『学校は家庭への連絡や

意思疎通を積極的に、きめ細かく行っている』の項目が昨年度80%超えが今年度77%になっている。この点が課題としてある。施設面についての評価も低いため、できることから改善していきたい。

教員の結果について、8『農芸高校の教員は、生徒の学習意欲や学力が向上するよう、教材の精選・工夫を行っている』は100%の結果となっている。授業を見学してもわかりやすい授業になるよう工夫している姿がみられるようになった。ICT関連の項目や主体的な授業展開（グループワーク等）に関する項目も高評価である。低い評価項目については、「研修に参加した成果を共有すること」や「施設面」におけるものが多い。教職員の適正に応じた人事配置や教員の環境に関する項目が低い。現在、人事配置が組みにくい状況である。再任用や若手教員が多く、ミドルリーダーを担う年齢層の教員が減少傾向にある。若手教員を指導する教員が少ない。マニュアル化も検討している。」

C「教職員の連携の低さについては、みなさんと意見をかわしていくことで、上がってくるのではないのでしょうか。ここが上がれば生徒さんの評価もあがってくると思います。」

B「保護者の回答の少なさについて。QRコードをプリントに添付して配布するなどすれば、回答率が上がるのではないだろうか。アンケート結果の信憑性にもつながってしまう。働き方改革において、電話対応については、生徒が校舎内にいる場合は電話対応をできるようにしている。下校時間までは対応できるようにしている。そのような対応をすると少しは改善されるかもしれない」

C「区役所のアンケート等についてもQRコードを大きめに掲示している。」

（3）令和6年度学校経営計画・令和5年度評価について

校長より：概要説明

校長「学校教育自己診断や授業アンケート、その他各担当部署の取り組みをまとめたものを自己評価に掲載している。（内容については前出）」

（4）今年度の農芸高校の取り組みについて

総務部：喜多村「資料参照。中学生へのPR活動に注力している。デジタル化を取り入れた。省力化することができた。説明回後のアンケートについてもQRコード読み取りでフォームを活用している。用紙も用意しているが、各説明会2名ほどが紙のアンケートを使用している状況である。農芸祭については、非公開であったが中学生を招待した。中学校説明会では、生徒自身が母校訪問に行き、教員もPRに向かった。中学校の反応はよく知っている学校と全く本校を知らない学校で二分化されていた。」

校長「働き方改革や農芸祭の中学生招待があるため、11月の学校説明会は来年度実施しないことになりました。PTA活動は今年度たいへん積極的に取り組んでいただきました。」

農場：葉山「別紙資料あり。大阪予選を勝ち抜き近畿大会・全国大会で活躍した生徒がいた。農業技術検定合格者も多数いる。日本農業技術検定2，3級学校優秀賞ももらっている。資格取得もよくがんばっている。学校行事や地域連携活動も活発に行うことができた。」

資源動物科：北田「本学科は若い教員が多い状況である。飼料費等の価格高騰や生徒の取り組みの充実等、前回ご意見いただいた内容を取り入れて対応していきたい。最新機器を活用し、生徒の勉強の幅を広げていきたい。教員だれが来ても取り組みが継続できるしくみ・体制づくりをすすめていきたい。」

2年学年主任：奥田「修学旅行を実施した。石垣島へ行き、環境や自然とふれあえる機会となった。価格が高騰しているため、現状と同じ価格であれば、充実した活動を行うことが難しくなっている。今後の修学旅行のあり方を検討していくべきではないかと考えさせられる行事であった。」

校長「経済的にしんどい家庭もあるため、徴収費をあげるというのは難しいと考えている。金額に合わせて日数を減らす等、今後校内で検討していかなければならないと考えている。」

（3）（戻りまして）※令和6年度の学校運営計画について

校長より概要説明

校長「中期的目標に、防災教育に関する項目を追加している。」

C「防災教育は大変大切なことだと感じている。区役所等でも活動を実施しており、フィードバックも行い、地域で共有する活動を行っている。地域で顔と顔を合わせる環境づくりの大切さを感じている。」

D「学校にいるときに震災にあったことを考えてたとき、美原区と協力してすすめていくべきである。」

B「高等学校では避難訓練を実施しているのか。非常食等の準備はどうなっているか。」

校長「火災避難訓練は5月に実施している。9月には880万人訓練を活用した訓練を実施している。備蓄品については入学時に購入しており、卒業時に返却している。」

C「防災センターでの研修が無料で実施しているので、ぜひ活用してはどうか。防災に必要なものや揺れに関する知識がみにつく。」

喜多村「家畜の問題もあるため、計画は綿密にたてなければならない。」

（5）委員の先生方のご意見

B「先生方の授業改善に対する取り組み（ブラッシュアップ）が生徒に跳ね返ってくる。そして保護者にその内容が伝わっていく。本校では先生方に自分の授業を見直すように伝えている。授業の中で生徒をよく観察し、指導することが大切だと考えている。」

C「ここに参加してたくさんを知ることができた。本校の生徒の満足度が高いのは先生方の努力によるものだと感じる。美原区や地域、企業との連携を今後も協力お願いしたい。美原区では24年より古代米開発等を行っている。一緒に美原区を盛り上げていきたい。」

D「様々なことにチャレンジされていて、生徒も満足できている。YOUTUBEを拝見している。関空の門松の制作等を見て楽しませてもらった。生徒たちがやりたいことができる環境を続けてほしい。日本へ来た人が初めてみる門松が、本校生徒が制作したものというのは素晴らしいと感じた。働き方改革をする際、創意工夫をし、修学旅行がなくなるなど、教育の機会がなくなることだけは避けてほしい。」

E「学校の内情・大変さを知ることができた。教員が生徒のために動いていることをより実感することができた。保護者から、この学校へ入学してからかわったという言葉を書いた。充実した生活を送れている言葉を聞くことができ、先生方の苦勞があつてこそだと感じた。酪農専攻の生徒が、お産をみられる取り組みがあればいいと思う。他の授業であっても呼び出してほしい。」

校長「年間に何頭も生まれるので、見られる機会はあると思う。タイミングによるかと思う。」

A「自己診断結果の生徒の「誇りを持っている」という評価が高いこと、保護者の「保護者の願いに応えている」の評価が高いこと、が素晴らしいと感じた。これからもがんばってほしい。これからの農業を担う人材が増えるといいと感じている。」

その他はなし。

学校長より御礼の挨拶